

2023年度

年次活動報告書

バディチームのめざす社会像
ビジョン

子どもも大人も誰もが互いに支え合い
みんなで子育てすることで
子どもがすこやかに育つ社会

… 込められた思い …

- ・ 子どもも大人も誰もが互いに支え合い
親も子も、子育てパートナーも事務局員も、行政や施設の職員も、子どものいる人もいない人も、誰もがみな誰かに支えられて生きているということ。
- ・ みんなで子育てすることで
この世に生まれてきた子どもは、親だけでなく社会の全員参加で育てるのだということ。
- ・ 子どもがすこやかに育つ社会
全員参加の支え合いの中で、子どもが心身健康に成長できる社会であるということ。

ビジョン実現のための行動指針
ミッション



子育てが大変になっているご家庭へ
バディチームは
子どもも親も「生まれてきてよかった」と思うことができ
あなたがあなたらしく生きられるように
その歩みを支えます。

… 込められた思い …

- ・ 子育てが大変になっているご家庭へ
バディチームは誰のために活動するのか？子どものためだけではなく、親のためだけでもない、その両方を含んだ「家庭」のために行動するのだということ。
そしてそれはいわゆる「養育困難家庭」だけではなく、さまざまな背景や事情を抱えた家庭であるということ。
 - ・ 子どもも親も「生まれてきてよかった」と思うことができ
子どもも親も、安心し、笑顔で、がんばりすぎず、未来に希望を感じてほしいということ。
 - ・ あなたがあなたらしく生きられるように
子どもは子どもの、親は親の、自ら選んだあり方で自分らしく生きてほしいということ。
 - ・ その歩みを支えます
「正しい」道へ導くのではなく、ただその場に寄り添うだけでもなく、
子どもが、親が、自分のペースで前に進んでいけるように、ともに歩むということ。
- 
- 

■ごあいさつ		2
■事業全体概要		3
■委託事業	養育支援訪問事業	4
	区民有償ボランティアによる食支援等事業	5
	里親家庭支援事業	5
■助成金事業	モバイル・コミュニケーション・ファンド助成事業	6
	日本財団助成事業	7
■自主事業	個人利用家庭への支援	10
	ショートステイ事業 準備	10
■提言・啓発活動	政策提言	11
	里親制度啓発活動 ONE LOVE	12
	里親制度啓発活動 世田谷区フォスタリング機関との協働	13
	活動説明会	13
	岡田ほかスタッフ登壇講演会	14
	メディア出演・掲載	15
■いただいたご寄付	寄付金額／物品寄付	17
	チャリティウォークキャンペーン「ORANGE WALK 2023」	18
■決算資料	決算資料	19

2023年度も様々な活動に取り組んでまいりました。

バディチームの事業活動の3本柱の1つである「養育支援訪問事業」は、設立当初より受託が始まり、16年間継続していく中で担当地区も増え続け今日に至っています。

2023年度は、児童福祉法の改正によりこの事業が新たな制度に移行するための準備の年でもあり、バディチームはこども家庭庁からヒアリングを受け、また同様の活動を行う団体とネットワークを組んで提言活動を行い、意見交換を行いながら現場の声を国に届けて、新制度の創設に協力しながら進んだ一年でもありました。

「養育支援訪問事業」「区民有償ボランティアによる食支援等事業」のような要支援家庭への訪問型支援は、全国的には実施率が低く、支援が届いていない家庭が多くあります。そうした家庭に対し、行政機関だけでできることは限られているため、行政・民間事業者・地域住民の協働が重要になりますが、こちらもなかなか進んでいません。先行して実践経験を積んできた立場として、このような活動を広げていく社会的責任も大きくなってきていると感じています。

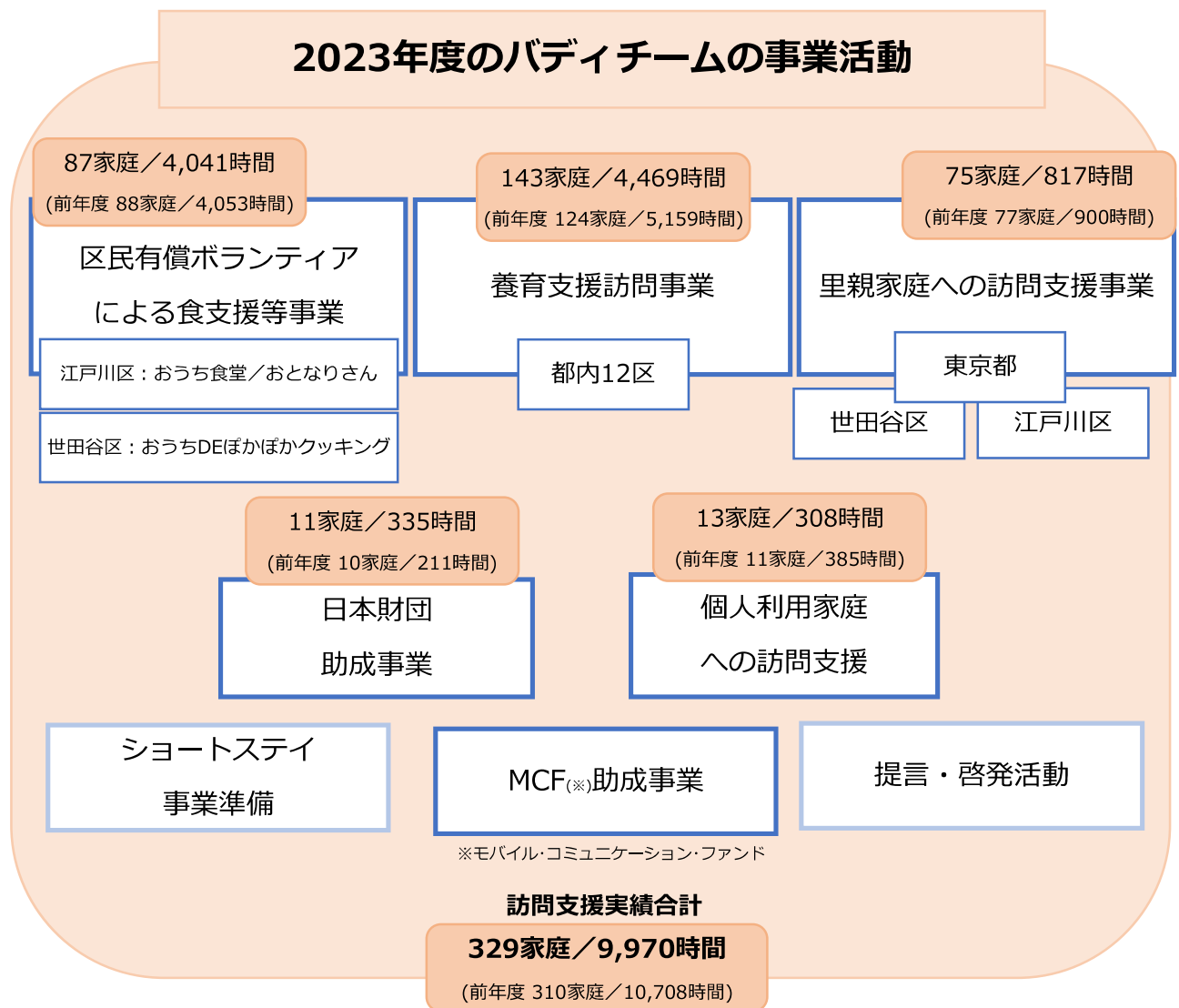
また事業活動全体においては、これまではほぼ委託事業を中心に行ってきた状況から、「制度の隙間」に対応する「訪問型養育支援強化事業」や、訪問型支援で築かれた信頼関係にもとづいた「居場所事業」の準備を行うなど、行政や公的支援が届かないところに対しても自主事業として、家庭数は多くなくてもしっかり取り組むという方向に大きく舵をきった1年にもなりました。

目の前の社会課題は山積みですが、少しずつ動き始めている変化の流れを止めず加速できるように。

そしてまずは何よりも、日々の1件1件の家庭に向き合い、みんなで悩みながら、ともに支え合いながら「社会で子育て！」を目指して、これからも進んでまいります。

みなさん引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

理事長 岡田妙子



- ◆今年度も「養育支援訪問事業」「里親家庭への訪問支援事業」「区民有償ボランティアによる食支援等の事業」の3つの柱を中心に、個人利用家庭の支援、日本財団助成事業も実施しました。
- ◆「養育支援訪問事業」は、前年度に1地区が契約終了となり、今年度は12区の受託を継続しました。
- ◆「里親家庭への訪問支援事業」では、区児相設立・フォスタリング機関の設置により、担当する地域は減少しましたが、より丁寧に対応することで、制度上の課題も新たに見えてきています。
- ◆「区民有償ボランティアによる食支援等事業」の中では、食支援以外の家事支援や子ども支援などの依頼も増え、多様なニーズに対応する支援事業となっています。
- ◆「日本財団助成事業」では、訪問型養育支援強化事業の2年目となり、「社会的とりこぼし」を防ぐための自主事業の展開をさらに広げました。
- ◆「ショートステイ事業準備」では、事業の拠点になる場所を確保し、居場所拠点の家具をご寄付いただくことで大きく前進しました。
- ◆MCF助成事業では、「里親家庭の親子を地域で支えるための保育士・教員・学童職員向け啓発プロジェクト」として「調査報告書の作成」と「オンラインイベントの開催」を実施しました。

養育支援訪問事業

事業概要

国の虐待予防対策の一環として位置づけられた事業で、パディチームでは活動開始当初より取り組んでいます。

2023年度の受託は都内12区。主に各区の子ども家庭支援センターからの依頼にもとづき、掃除や調理、子どもの送迎、遊び相手、学習支援、子育ての相談相手など、実に多岐にわたる支援を現場の子育てパートナーのみなさんに実施していただいています。

2023年度の実績と概況

活動地域：東京都内12区

活動実績：143家庭／4,469時間（2022年度：124家庭／5,159時間 2021年度：113家庭／5,555時間）

まず前提として、同じ事業ではありますが、その実態は自治体ごとに大きく異なっています。対象家庭の子どもの年齢、支援の具体的な内容、支援の期間、行政と事業者との役割分担などは、それぞれの自治体の事情や考え方に応じて設定されています。

若年での飛び込み出産や未受診出産後の新生児家庭に対する支援、あるいは特定妊婦に対する支援も多くありましたが、学齢期の児童の学習支援、あるいは日常的な家事の前段階として物で溢れた環境を片付ける支援も多くありました。

保育園入園までの期間や、保護者の疾患・障害に対する他のサービスが開始するまでの期間の「橋渡し」のような役割も多くありますが、支援期間中に保護措置となるケースや、逆に保護措置から家庭復帰後の見守りの役割として支援に入るケースも一定数ありました。

自治体ごとの差が大きいことは上記のとおりですが、同じ自治体でも、支援の期間や内容などの運用方針が経年で変化してきている状況もあります。2024年度には「子育て世帯訪問支援事業」に制度が変更されますが（下記参照）、そうした外部環境の変化にも対応しながら、家庭にとって必要な支援を、子育てパートナーのみなさんといっしょに引き続き届けていきます。

新制度「子育て世帯訪問支援事業」へ

児童福祉法の改正にもとづき、これまでの養育支援訪問事業（育児・家事援助）は、2024年度より「子育て世帯訪問支援事業」に移行されます。

これまでの養育支援訪問事業（育児・家事援助）は全国的に見るとその実施率は低く、とくにNPOなどの民間事業者に委託して事業を実施している自治体は3割にも届いていません（2020年4月）。つまり必要な家庭に支援が届いていない状況が続いていました。そのため、国は対象家庭を拡充し、訪問型子育て支援の実施率を高める方針のもと、子育て世帯訪問支援事業を新制度として創設しました。

新制度の準備期間にあたる2023年度は、パディチームはこども家庭庁からのヒアリングを受け、関係団体とのネットワークを通じて提言活動を行い、意見交換を重ねながら現場の声を国に届けるための活動を行いました（p11「政策提言活動」参照）。

パディチームが事業を受託している都内12区においては、実際の支援活動は大きな変更なく実施されることがわかっていますが、全国的には「巨大な」自治体間格差が存在することが明らかになっています。そうした地域においても必要な家庭に支援が届くよう、東京だけではなく他道府県の団体とも手を携えて、互いに学び合い、提言を行っていく必要性を感じています。

市区町村における子育て家庭への支援の充実

- 要支援・要保護児童(※1)は約23万人、特定妊婦(※2)は約0.8万人とされる中、支援の充実が求められている。
※1 保護者への養育支援が特に必要、保護者による監護が不適当な児童 ※2 出産前において出産後の養育支援が必要な妊婦
- 地域子ども・子育て支援事業において、訪問型支援、通所型支援、短期入所支援の種類・量・質の充実を図るとともに、親子関係の構築に向けた支援を行う。
- 市区町村において計画的整備を行い、特に、支援が必要な者に対しては市区町村が利用助奨・措置を実施する。

子育て世帯訪問支援事業（訪問による生活の支援）

- 要支援児童、要保護児童及びその保護者、特定妊婦等を対象（支援を要するヤングケアラー含む）
- 訪問し、子育てに関する情報の提供、家事・養育に関する援助等を行う。

例）調理、掃除等の家事、子どもの送迎、子育ての助言 等

こども家庭庁公開資料より

区民有償ボランティアによる食支援等事業

事業概要

子ども食堂の取り組みが広がっていますが、そうした場所に出かけいくことも難しい家庭があります。そんな家庭を訪問し、食事づくりを軸とした支援を都内2区から受託して実施しています。ニーズは様々で、実際に訪問してみると「食」の他に様々な困難があることも多く、行政や関係機関と連携して新たな支援へつなぐ役目も果たしています。現場を訪問する有償ボランティアを区が募集し、事務局コーディネーターが伴走してサポートする運営のあり方が、特徴の1つでもあります。

2023年度の実績と概況

活動地域：江戸川区・世田谷区

活動実績：**87家庭／4,041時間**（2022年度：88家庭／4,053時間　2021年度：80家庭／2,685時間）

2023年度途中までは全体に支援依頼の少ない時期もありましたが、最終的には前年度と同水準の支援実績となりました。さまざまな事情を抱えながらフルタイムで働く保護者の調理負担を軽減する支援や、疾患や障害を抱える保護者が他の福祉サービスにつながるまでの支援などがありました。

家庭からは「支援の日は家族で食卓を囲めた」「誰かを頼ってもいいんだと思えた」などの声を聞くことができた他、子どもが調理のお手伝いをしたり、簡単な食事を自分で作れるようになった、などの変化も聞かれました。

様々な台所環境での支援ですが、現場のボランティアさんの臨機応変な対応やアイディアに支えられて、支援を続けています。

それぞれ区の独自事業でもあることから、支援を一定の規模で継続して実施していくには、行政のケースワーカーさんに既存のサービスとの違いや意義・目的について、十分に理解してもらうことが重要になります。事業運営を担当する職員さんと連携しながら、そうした行政内での理解増進のための取り組みも行っています。

里親家庭への訪問支援事業

事業概要

「里親を増やす」とことと同時に、「里親を支える」ことが必要であるという立場から、パディチームでは里親家庭に対する訪問型支援を2009年から行っています。2023年度は東京都が所管する5つの児童相談所が管轄する地域と、2区が受託地域となりました。乳児院や児童養護施設に所属する里親支援専門相談員や、フォスティング機関（里親養育包括支援機関）と連携しながら、乳幼児の見守り・遊び相手や、保育所や学校への送迎、家事などの支援を行っています。

2023年度の実績と概況

活動地域：東京都所管の5児童相談所管轄地域・江戸川区・世田谷区

活動実績：**75家庭／817時間**（2022年度：77家庭／900時間　2021年度：99家庭／1,293時間）

地域ごとに差もありますが、月1回程度の定期的な家事支援や、在宅時間の増える夏休みなど長期休暇中の支援、また、育児疲れを理由とした利用や、リモートワークでの仕事での保育、といったニーズが見られました。

里子を正式に委託されてから保育園入園までの期間（1～2ヶ月間）の支援もあり、中には委託前の段階から相談員を通じて相談を受け、委託の直後に支援を開始したケースもありました。

里子が正式委託される前の「長期外泊」とよばれる期間は、地域の子育て支援サービスの多くが利用できません。里親どうしの交流が深く助け合いが活発な地域もありますが、親族のサポートもなく、家庭内で対応を求められるケースも多くあります。

初めての子育てにあたる里親家庭や、共働きの里親家庭も増えていることが背景にあるように感じられます。

都内の児童相談所に順次フォスティング機関（里親養育包括支援機関）が設置される動きの中で、担当する地域は徐々に減少してきていますが、より丁寧に対応することで、制度上の課題も新たに見えてきています。助成金などの財源を活用しながら、里親家庭に対する支援環境の充実にむけた取り組みを続けていきます。

モバイル・コミュニケーション・ファンド（MCF） 助成事業

「里親家庭の親子を地域で支えるための保育士・教員・学童職員むけ啓発プロジェクト」

これまで東京都所管の児童相談所を中心に、広く一般市民むけに行われていた里親制度や社会的養育についての普及啓発活動を、里親家庭の親子とより日常的に接する「従事者」に対象を絞って展開します。

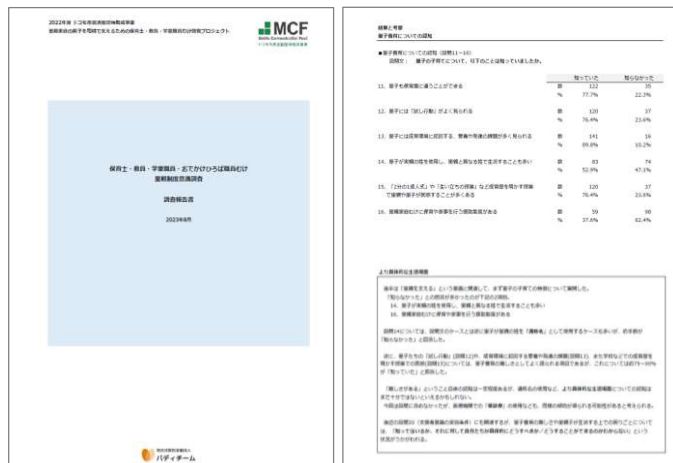
これにより、里親を「増やす」だけではなく、みんなで「支える」地域づくりに寄与することを目的とします。

事業内容のうち2023年度は、前年度に実施した調査についての報告書の作成と、オンラインイベントを開催しました。

1. 調査報告書の作成

2022年度に世田谷区内の「従事者」むけに実施したアンケート調査の結果を報告書にまとめました。

里子養育には難しさが伴うことそれ自体は認知度が高いが、より具体的な生活場面についての認知度が不十分であることなどが明らかとなり、その後のフォスタリング機関と協働した普及啓発活動（p12参照）にも活用されています。

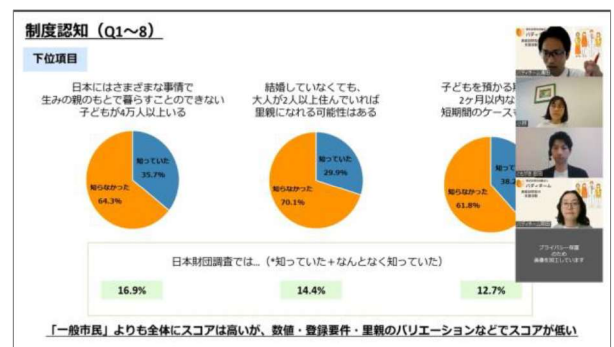


- 調査対象：
 - 世田谷区内の区立保育園・区立小学校・区立中学校の職員
 - 世田谷区内の学童クラブ・おでかけひろばの職員
- 調査方法：
 - Webアンケート
- 調査期間：
 - 2023年2月20日～2023年3月19日
- 調査内容：
 - 里親制度についての認知・意識
 - 里親家庭の養育についての認知・意識
- 回答総数：
 - 157件

2. オンラインイベントの開催

2023年6月25日、上記の調査結果を紹介するオンラインイベントを開催しました。ゲストとしてお招きした里親当事者さんからは「特別扱いはしていただかなくても、本当に普通に接していただきたいのです。」と、また同じくゲストのフォスタリング機関の職員さんからは、「今まさに必要とされているのが、『普通』という価値観をアップデートしていくことだと思っています。」という印象的なメッセージを発信していただきました。

- タイトル：
 - 里親家庭の親子を地域で支えるためのトーク&ミーティング
 - ～従事者むけ意識調査と当事者の声から～
- 開催日：
 - 2023年6月25日
- ゲスト：
 - 小林孝子（里親当事者）
 - 岩田祐一郎（フォスターホームサポートセンターともがき 副センター長）
- 参加者：
 - 24名



こちらからアーカイブをご覧ください！ →



日本財団 助成事業

「訪問型養育支援強化事業」（2年目）

支援が必要な状況に関わらず、既存の制度や支援に繋がっていない家庭に対して、民間団体との連携により訪問型支援を届ける事業です。背景にある社会課題を明らかにし、既存の支援制度の見直しを図り、官・民・地域住民の連携を強化することで制度の狭間を補いあえるようにすることを目的としています。

2年目となる2023年度は、前年度実施した活動も継続しつつ、新たに「関係機関・関連団体との連絡協議会の開催」「コーディネーターに関する調査の実施」を実施しました。同様の活動を実践している団体と連携して提言活動を行うことや、現場実践の要の領域を調査により明らかにしていくことで、訪問型養育支援のさらなる強化に取組みました。

事業実施概要

1. 他団体・多職種による情報共有・事例検討会（3団体）
2. 家庭訪問型支援の実施（11家庭）
3. 関係機関・関連団体との連絡協議会の開催
4. コーディネーターに関するヒアリング調査の実施
5. 中間報告会の開催と報告レポートの配布

1. 他団体・多職種による情報共有・事例検討会

インタビュー形式で、民間機関と情報共有・事例検討会を行いました。

2023年度は、学童期の子どもたちを対象に学習支援を中心に居場所・施設型で活動を展開している3団体でした。

各団体とも訪問型支援に対する関心が高く、すでに自団体で居場所と並行して訪問型支援を実施していたり、パディチームとの具体的な連携事例の検討も並行して進んでいるといった状況で、各回、質の高い内容となりました。

第1回	2023年8月23日(木)	認定NPO法人Learning for All 八名恵理子 氏
第2回	2024年1月22日(月)	NPO法人翔和学園 中村朋彦 氏 ・ 西山幸恵 氏
第3回	2024年2月9日（金）	一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク 土屋匠宇三 氏 ・ 山浦健二氏

※各回の内容はパディチームHP内の「マガジン」記事に掲載しています。

2. 家庭訪問型支援の実施

計11家庭に訪問型支援を実施しました。前年度からの継続や、再開となる家庭もありました。また、約半数が里親家庭となり、里親家庭支援制度の狭間対応のニーズの高まりも感じられます。

行政に拒否的だった家庭が支援により少しずつ変わり、民間団体との連携により公的支援に繋がることができたケースもありましたが、全体的には支援終了後の受け皿としての地域の社会資源の乏しさが感じられました。

支援が途切れぬよう細く長く継続しつつ、次の展開を検討していく支援体制が必要となりました。

2. 家庭訪問型支援の実施（対象家庭）

依頼経路	背景	支援内容
知人	難病児のきょうだい児・保護者の疲弊	学習支援・話し相手
本人	父子世帯(自治体の1人親支援開始前)	保育
本人	保護者の疲弊・子どもの特性	話し相手・保育・家事
特別支援教育機関	保護者の疲弊・子どもの特性	保育・送迎（支援機関への移動）
フォスタリング機関	養子縁組成立後・保護者の疲弊・子どもの特性	保育・話し相手
フォスタリング機関	里親（親族）・高齢一人親の養育	調理（家事支援）・話し相手
里親支援専門相談員	里親・正式委託前の長期外泊中	保育
里親支援専門相談員	高齢児里子の課題対応	子どもとともに掃除（家事援助）
里親支援専門相談員	保護者の不安感	学習支援・話し相手
里親支援専門相談員	里親疾患治療中(副作用による家事負担軽減)	掃除（家事支援）
里親支援専門相談員	里親・正式委託前の長期外泊中	保育

3. 関係機関・関連団体との連絡協議会の開催

提言活動を進めていく目的で同様に訪問型子育て支援を実施している3団体でネットワークを構築しました。名称を決め、連絡協議会を開催し、意見交換を重ねました。（詳細はp11「政策提言活動」参照）

4. コーディネーターに関するヒアリング調査の実施

訪問型支援に対する注目の高まりとともに、現場で支援を行う訪問支援員の質・量の確保については国レベルでも議論が行われるようになりましたが、一方で、行政・家庭・訪問支援員の間にあって全体の調整を行うコーディネーターの存在には、ほとんど光が当たってきませんでした。7事業者のコーディネーターに対してヒアリング調査を行い、その役割・意義について報告書にまとめました。

■調査対象：

自治体からの委託または補助事業により、家庭訪問型子育て支援事業を行う7事業者から8名
（事業者内訳：NPO 4・ベビーシッター会社 2・任意団体 1）



調査報告書本文より
コーディネーターの役割として7つのカテゴリーと
37のコードが抽出された。

※調査報告書の全文はこちらのページからご覧いただけます →



5. 中間報告会の開催と報告レポートの配布

2023年11月30日、オンラインにて開催。家庭訪問型こども・子育て推進ネットワークによる「訪問型子育て支援協働リレーセミナー」（p11「政策提言活動」参照）の第2回と位置付け、こども家庭庁の担当課長の他、現行の養育支援訪問事業で協働する足立区の担当課長もゲストに招き、国・自治体・民間団体それぞれの立場から、政策意図や実践の実態・課題などについて発信を行いました。

- タイトル：
地域住民が前線に立つ家庭訪問型支援の可能性
～こども家庭庁・自治体・民間団体による公開ミーティング～
- 開催日：
2023年11月30日
- 出演者：
山口正行（こども家庭庁 成育局 成育環境課 課長）
高橋徹（足立区こども支援センターげんき こども家庭支援課 課長）
森田圭子（NPO法人ホームスタート・ジャパン 代表理事）
寺出壽美子（NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会 理事長）
濱田壮摩（NPO法人バディチーム 理事）
- 参加者：
162名



こちらからアーカイブを
ご覧いただけます！ →



イベントのもようは報告レポートという形でチラシにまとめ、全国の自治体・関係機関など500カ所以上に配布しました。

個人利用家庭への支援

活動地域：東京都内

活動実績：**13家庭／308時間**（2022年度：11家庭／385時間 2021年度：10家庭／446時間）

養育支援訪問事業、里親家庭への訪問支援事業等の制度期間が終了し、さらにサポートを希望された一部の家庭に対して、これまで同様に個人利用としての訪問活動を行いました。保育、家事（掃除、調理）、オンラインでの学習支援等それぞれの支援内容で、同じ子育てパートナーが継続して担当しました。

対象家庭数は多くはないですが、個人利用と既存の制度を上手く組み合わせることで、より充実したフォロー体制にも繋がっています。

ショートステイ事業 準備

2022年度から新宿区の認証研修の受講や先行団体への視察・現場支援参加など準備を進めているショートステイ事業ですが、2023年度は、いよいよ事業の拠点となるお部屋（新宿区内）を確保しました！また民間助成金への事業申請が採択され（下記1参照）、一定程度の予算を獲得することもできました。

少しずつではありますが、事業実施にむけて準備を進めています。

2024年度 いよいよ事業実施へ

2024年度は、いよいよ支援を実施していきます。

宿泊を伴う支援はまだ実施できませんが、日中から夜間帯までを対象に、2つの事業枠で支援を開始します。

1) こどもの未来応援基金「アウトリーチ連動型 親子に寄り添う小さな居場所事業」

：民間の助成金を活用して、すでに他事業の訪問型支援で繋がりのある親子に対して支援を行います。

2) 新宿区「子どもトワイライトステイ」

：新宿区の委託事業として、区内の親子のトワイライトステイ（17：00～22：00）の受入れを開始します。

そしてこれらの事業を行う拠点の愛称が、事務局内投票の結果「**ばうむ**」に決定いたしました。

これからのばうむの成長にご期待ください。

①【助成金事業】

アウトリーチ連動型 親子に寄り添う小さな居場所事業

居場所等関連事業「ばうむ」

②【新宿区委託事業】

子どもトワイライトステイ



「ばうむ」名前の由来：

ドイツ語のbaum（樹木）と「場所を生む（場生む）」のふたつの意味があります。子どもも大人も少しずつ年輪を重ねる樹木のようにあってほしい。ここはそんな人たちの居場所でありたい。「ばうむ」にはそんな願いが込められています。

政策提言活動

「家庭訪問型子ども・子育て支援推進ネットワーク」結成

提言活動を強化する目的で、あらためて前年度から始めた3団体によるネットワークを構築しました。名称を決め、連絡協議会を開催し、意見交換を重ね、2023年8月にはこども家庭庁に訪問し、新年度より始まる「子育て世帯訪問支援事業」に関する提言を行いました。年度を通じて3団体による「訪問型子育て支援 協働リレーセミナー」を開催し、すべての回にこども家庭庁の担当課長に出演いただきました。

- 連絡協議会の名称
家庭訪問型子ども・子育て支援推進ネットワーク
- 連絡協議会の構成
NPO法人ホームスタート・ジャパン
NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会
NPO法人バディチーム
- 連絡協議会の開催
2023年5月～2024年3月に8回開催
- こども家庭庁への提言活動
2023年8月1日 こども家庭庁 成育局にて
「子育て世帯訪問支援事業」に関する意見交換

■「訪問型子育て支援 協働セミナー」のリレー開催

- 2023年7月20日： vol.1 訪問型子育て支援事業の新たな展開に向けて
主催) NPO法人ホームスタート・ジャパン
- 2023年11月30日： vol.2 地域住民が前線に立つ、アウトリーチ支援の可能性
主催) NPO法人バディチーム
- 2024年3月25日： vol.3 こどもの安定した家庭生活を支えるために
主催) NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会



vol.1 チラシ



すべての回に、こども家庭庁成育局成育環境課課長・山口正行氏に出演いただきました。



vol.3は対面参加と併せたハイブリッド形式で開催しました。左から岡田妙子 (NPO法人バディチーム) 森田圭子 (NPO法人ホームスタート・ジャパン) 寺出壽美子 (NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会)

ネットワークの拡充へ

事業内容も、また新制度への提言内容における力点も異なる3団体が連携したことで、こども家庭庁との協議内容も深まり、訪問型支援の現場の声を国に届けるための体制が強化されたといえます。

一方、全国では地域格差が拡大する一方であるため、東京だけではなく他県の団体も含めたネットワークの拡充が次年度の課題となっています。

里親制度啓発活動

「ONE LOVE 全国一斉里親制度啓発キャンペーン」

NPO法人日本こども支援協会では、毎年10月4日に全国一斉里親制度啓発キャンペーン「ONE LOVE」を実施しています。このキャンペーンは「里親制度のこと」「社会的養護が必要な子どもたちのこと」をたくさんの人に知ってもらうことが目的です。

実施概要・結果

バディチームでは、2023年10月28日に4回目となる「里親制度啓発キャンペーン」を開催しました。ハート型のリーフレットと普及啓発グッズをパッケージした800部を飯田橋・神楽坂の街頭で配布しました。今年も一般社団法人東京公認心理師協会さんにもご参加をいただきました。

東京公認心理師協会さんは東京都里親支援機関として里親家庭への支援のほか、里親制度の普及啓発を行っており、キャンペーンの1回目から、普及啓発グッズの提供や当日の街頭配布までご協力をいただいています。

- 配布枚数 800枚
- 参加者 14名（事務局・子育てパートナー・東京公認心理師協会職員）

※このほか、11月3日に世田谷区で行われた「365日のさとおやこ」イベント（次ページ参照）でも配布を行いました。



メインとなるハート型のリーフレット（左）の他、東京都の公式キャラクター「さとべん」と不二家のペコちゃんのコラボポストカード、また子どもと里親の暮らしを知るサイト「Tokyo里親Navi」や映画「ずっと、いっしょ。」上映会の案内チラシを併せて配布しました。



JR飯田橋駅前の配布



グッズを受け取ってくださった方には「頑張ってるね」「応援しているよ」等、声をかけてくださる方も多く、活動の励みになりました。また「私も里親です」「乳児院で働いています」など、社会的養護(※)に携わっている方との出会いもありました。

来年度も、該当配布を通して里親制度を知っていただき、地域で養育している里親さんたちのことも身近に感じていただきたいと考えています。日本こども支援協会さんの活動が全国にもっと広がっていくことを願っています。

※社会的養護：

親がいない、親が育てることができない、虐待を受けたことがあるなどのさまざまな理由で、生みの親と一緒に暮らせない子どもを、社会が養育するしくみのことです。日本で社会的養護を必要としている子どもたちの数は、約42,000人いるとされています。生みの親が養育できない子どもは、養子縁組や里親・ファミリーホームなど家庭と同様の養育環境で、継続的に養育されることが原則となりました。

里親制度啓発活動

世田谷区フォスタリング機関「ともがき」との協働

世田谷区フォスタリング機関である「フォスターホームサポートセンターともがき」（社会福祉法人東京育成園）さんと協働した、里親制度の普及啓発活動の取り組みを続けています。互いの主催イベントへの共演や出展、また2023年度は、世田谷区内のおでかけひろば職員むけの出張講座を共催で実施しました。



2023年11月3日「365日のさとおやこ〜あおぞらマーケット〜」。
下北沢の屋外イベント会場で、バディチームは出展団体として普及啓発グッズの配布などを行い、イベントの模様は渋谷のラジオでも紹介しました（p14参照）。

2023年11月13日、世田谷区内のおでかけひろばの職員むけに出張講座を共催で実施しました。（右図は資料の一部）
利用者に対しての「よく使う声かけ」をもとに、里親子に対する具体的な対応方法や配慮について、いっしょに考えていただきました。

事前ヒアリング「よく使う声かけ」から..

よく使う声かけ	どの辺に住んでいるの？近所なんですか？家はお近く？
よく使う声かけ	褒められていますか？よく褒められています？ママは褒められています？
よく使う声かけ	ママやパパに話しても子どもに話しても伝わる声かけをたくさん使っています。
よく使う声かけ	他のひろばや児童館は行きますか？他にもひろばに行ったことある？
出席のこと	出席はどこだった？どこで出席したの？
出席のこと	出席はどうでしたか？大変でしたか？
出席のこと	ご実家は近いの？
出席のこと	親戚さんとか手助けしてもらえませんか？借りられる手はある？
出席のこと	1人目ですか？〇〇ちゃんはいま何歳ですか？
出席のこと	家ではお父さんと二人で遊んでいる？（他に何人の家族はいるか？）
出席のこと	まっかちゃんやうでやうでひろば（ぼっこ、cobaco）のことを知りましたか？
出席のこと	ママ自身の資格中ですか？
出席のこと	困っていることとかはない？何が大変？
出席のこと	離乳食はすすんでいますか？
出席のこと	どこに遊びに行っている？

バディチーム活動説明会

開催実績：22回（2022年度：20回 2021年度：26回）

2023年度も月2～3回のペースで説明会を実施しました。

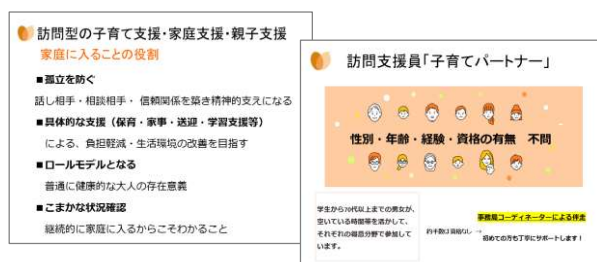
担当者3名で平日日中、夜、週末とそれぞれ分担して説明会を実施し、参加希望者が都合の良い日時に参加できるようにしています。

説明会資料も、バディチームの活動内容の変化に合わせて改訂し、わかりやすい説明会資料になるように心がけています。説明会参加後に子育てパートナーの登録を希望する割合は約半数となっており、説明会を実施するようになってからの数年間、ほぼ同様の割合で推移しています。

説明会后に、子育てパートナーとしての登録に結びつかなかった方にも、寄付や他の形でバディチームを応援してもらえるような仕組みづくりをしていきたいと考えています。



SNSでの募集情報の発信も強化しました。



説明会資料の一部。
活動を前提とせず取材等の目的で参加される方へも、バディチームの活動についてお伝えしています。

登壇講演会

代表・岡田ほかスタッフが登壇した講演会

開催日	主催	タイトル	出演
2023/7/8	認定NPO法人ブリッジフォースマイル	コエール2023 ～親ありき日本をこえる～ 第二部 子どもと家庭への支援について考える	岡田
2023/7/20	NPO法人ホームスタート・ジャパン	訪問型子育て支援協働セミナーvol.1 こども家庭庁とともに、訪問支援のあり方を考える	岡田
2023/8/25	バイザー株式会社	社内研修会 子どもの虐待防止 民間団体の取り組みから	岡田
2023/9/14	佐藤匡史氏・埼玉大学関係者有志	川口・草加・越谷エリア定例会議 子どもの虐待防止を目的とする要支援家庭への訪問型支援の実践より	岡田
2023/10/17	江戸川総合人生大学	江戸川区児童相談所の子育て支援施策について ～おうち食堂・おとなさん事業の取り組み～	岡田・小川
2023/11/10	埼玉県立大学	2023年度 地域包括ケア推進セミナー 子どもの虐待防止を目的とする要支援家庭への訪問型支援の取り組み	岡田
2023/12/10	フォスターホームサポートセンター ともがき	里親が暮らしやすい街は、きっと、あなたも暮らしやすい街。 ～〇〇と考える、わたしにできること～	濱田
2023/12/18	埼玉県生活協同組合連合会	助け合い活動交流会 NPO法人による子どもの虐待防止を目的とする要支援家庭への訪問型支援の取り組み	岡田
2023/12/25	SWと子どもの権利条約勉強会	子どもの虐待防止を目的とする パディチームの家庭訪問型支援事業の取り組み	岡田
2024/1/19	東京キワニスクラブ	定例ミーティング・研修会 子どもの虐待防止を目的とする要支援家庭への訪問型支援の取り組み	岡田
2024/2/18	江戸川区児童相談所	1DAYセミナー 地域全体で子どもの育ちを支えるために私たちにできること	小川
2024/3/25	NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会	訪問型子育て支援協働セミナーvol.3 子どもの安定した家庭生活を支えるために	岡田



2023年7月8日「コエール2023」



2023年12月10日
「里親が暮らしやすい街は、
きっと、あなたも暮らしやすい街。」



2023年8月25日 バイザー株式会社 社内研修会



2023年10月17日「江戸川総合人生大学」



2024年3月25日
「訪問型子育て支援協働セミナー vol.3
子どもの安定した家庭生活を支えるために」



2024年2月18日
「1DAYセミナー 地域全体で子どもの育ちを
支えるためにわたしたちにできること」

参加者10名程のオンライン勉強会から参加者500名を超えるハイブリットイベントまで多様な規模感の講演会に
代表・理事・事業責任者が出演しました。

企業の社会貢献事業の一環としての社員研修や、地域住民とともに暮らしやすい地域社会をつくっていくための会議・
イベントへの出演など、新しい動きも感られました。

メディア出演・掲載

渋谷のラジオ「渋谷社会部」

2019年10月から月1回のレギュラーとして制作・出演している「渋谷社会部」。
2023年度もさまざまなゲストを招いてお送りしました。

放送日	担当	テーマ
		ゲスト
2023/4/4	濱田	かえってきた【渋谷のプロボノ部】 part2
		【出演】池田明枝・稲津かおり・橋本潤子・吉田春香（プロボノワーカー）
2023/5/2	岡田	訪問型子育て支援、やりがいと難しさ～事務局と現場支援者の二刀流??から見てきたこと～
		【出演】平岩良子・成澤健太・藤村憂里（事務局職員）
2023/6/6	岡田	ひとり親家庭・困窮家庭のこども支援 西宮市 こどもサポートステーション たねとしずく
		【出演】大和陽子（こどもサポートステーション たねとしずく）
2023/7/4	濱田	子どもたち（とオトナ）の居場所を一緒につくるービリーバーズの「共創の場」ー
		【出演】蔵本美紀（ビリーバーズ）
2023/8/1	岡田	～親を頼れなかった子ども時代から・・・伝えたいこと～
		【出演】ヨウ・シロシ（当事者）
2023/9/5	濱田	つながるチーム part4 ― 江戸川区里親ステーションくふおれすと>
		【出演】神田瑞季・行方信（江戸川区里親ステーション ぶおれすと）
2023/10/3	岡田	みんなで、フレンドホーム（週末里親）！
		【出演】山田愛弓・杉井麻彩（聖友ホーム）・森田希和（事務局職員）
2023/11/7	濱田	「365日のさとおやこ～あおぞらマーケット～」イベントレポート！
		【出演】「365日のさとおやこ」イベント出展者
2023/12/5	濱田	[アンコール放送] 親を頼れなかった子ども時代から・・・伝えたいこと～
		【出演】ヨウ・シロシ（当事者）
2024/1/9	岡田	それぞれの経験を活かして訪問型子育て支援の現場から事務局へ
		【出演】小林裕子・宮田理香・今井美智子（事務局職員）
2024/2/6	濱田	[アンコール放送]「こども大綱を機に考える戦後の子ども観・子育て観と保育実践者たちの想い」
		【出演】松本園子（白梅学園大学）

※2024年3月は放送局の都合によりお休みでした。

地域の大好き、発見メディア。「ロコラバ」

2023年12月3日、全国のコミュニティFM98局にて放送されている「ロコラバ」でお話をさせていただきました。



こちらからアーカイブを
お聴きいただけます。



Yahoo!ニュース エキスパート ドキュメンタリー (2023年8月20日)

「育児疲れや困難を抱える親子に“寄り添って”サポートする--訪問型支援とは？」

ドキュメンタリー映像作家である清藤裕貴監督による半年以上の長期取材をもとに、バディチームの活動について約10分の映像作品を制作していただき、Yahoo!の企画記事として掲載いただきました。



こちらから記事と動画を
ご覧いただけます。



清藤裕貴 監督

TVディレクターとして、主にマイノリティーの世界を主戦場に、TVドキュメンタリーを100本以上制作。『性犯罪者の刑務所での矯正教育』『売春婦ホームレスの実態』『犬捨て山の実態』『虐待を受けた児童たちのいま』『孤独死の現状』『HIV感染者の受ける差別』等。その後、差別について民俗学から研究するため大学院に進学。「ホームレス同士の差別論」について修論を書く。修了後、『遊郭の街・飛田新地のいま』、『ヘイトスピーチと被差別部落』等を制作した。自身の実父のドキュメンタリー映画『暴力親父 余命4ヵ月 憎しみと愛の狭間で。』が東京ドキュメンタリー映画祭2022で入選。

清藤監督のYoutubeチャンネルでは約15分の別バージョンも配信されています。こちらもぜひご覧ください！ →



日本子どもを守る会『子ども白書2023』（かもがわ出版）

日本子どもを守る会が1964年から刊行を続ける『子ども白書』。その2023年度版に、岡田執筆による記事が掲載されました。



自治体・児童相談所と民間団体の連携による、訪問型支援の取り組み

NPO法人バディチーム◎岡田妙子

「子育てが困難な状況にある心配な家庭」を訪問しての支援活動については、行政機関や専門職が行うことと思われがちです。しかしながら、民間団体や地域住民の力を活かし、行政と民間が連携して取り組むことで、より家庭のニーズに対応した丁寧な支援が届けられ、その効果が期待されています。

民間団体の取り組み

保育・送迎・学習支援等と多岐にわたります。現場支援者は、年齢・性別・資格や経験の有無を問わず、学生から80歳近い方までが登録し、それぞれの経験を活かして得意とする領域を担っています。多様な価値観をもった家庭に訪問し、ありのままを受けとめ、親と子どもの間に入り、家事や保育を行うという事は簡単なことではありませんが、志を

読売新聞 (2023年4月27日)

関西版にて食の支援活動について取り上げていただきました。

※記事内で紹介されているNPO法人こどもサポートステーション・たねとしずく（兵庫県西宮市）の和大陽子さんは渋谷のラジオにもご出演いただいています。



3食とれない

子ども食堂やフードバンクなど困窮家庭への食の支援が広がる一方、外に出てこれない家庭に手を差し伸べる「アウトリーチ型」の活動も必要とされている。

NPO法人バディチーム（東京都新宿区）の取り組みは先進的だ。江戸川区や世田谷区などから受託し、原則18歳までの子どもがいる家庭に有償ボランティアが出向き、買い物から調理、片付けまで一緒にやる。こうした官民協働の支援はまだ少ない。

食の貧困について研究する日本学術振興会特別研究員の土田道さんは21年、東京、阪神、名古屋に住むシングルマザー53人に食生活について聞き取り調査を行った。

回数や品数など、具体的な食事内容を調べる中で、週単位の食事別欠食率が朝食、昼食はともに4.4%、夕食は3.3%と高く、3食とれていないことがわかった。節約したり、不規則勤務を続けたりするうちにその状態に慣れ、おなかがすかなくなるという「食欲の貧困」に陥るケースもあり、「健康面で見過ごせない」と指摘する。

こちらから記事全文を
お読みいただけます。



いただいたご寄付

寄付金額 1,208,552円（物品寄付の換算額を含む）／ **表彰金 1,000,000円**

（2022年度：1,295,002円 2021年度：890,440円）

今年度は、公益財団法人社会貢献支援財団より社会貢献者として表彰をいただきました。受賞対象は「広く社会の各分野において、社会と人々の安寧と幸福のために尽くされた方（団体）」とのこと、今までの活動に対して評価をいただけたことをありがたく嬉しく受け止めるとともに、今後の励みにもなりました。

また、2022年度に続きチャリティウォーク「ORANGE WALK2023」にも支援先団体として参加し（詳細は次ページ参照）、参加したみなさんの歩数に応じてご寄付をいただいた他、イケア・ジャパン株式会社様から物品のご寄付もいただきました。（詳細は下記参照）

寄付金全体に対しての割合こそ多くはありませんが、個人の方々からも貴重なご寄付を頂戴しています。寄付者の中には子育てパートナーさんやプロボノさん等をはじめ、私達の活動の意義を深くご理解くださっている方々が多くいらっしゃいます。「みんなで子育てする社会」の実現に向けて志を同じくする仲間とともに歩みを進められることを、心強く感じています。

【内訳】ORANGE WALK 2023	404,012円
イケア・ジャパン株式会社 様（換算）	548,540円
個人のみなさま（企業マッチング寄付を含む）	256,000円
公益財団法人社会貢献支援財団 様（表彰）	1,000,000円



2023年7月31日 公益財団法人社会貢献支援財団「第59回 社会貢献者表彰式典」



物品の寄付（イケア・ジャパン株式会社 様より）

イケア・ジャパン株式会社様による「IKEA子ども募金」活動の一環として、パディチームの居場所等関連事業「ぼうむ」の拠点となるお部屋をIKEAさんがコーディネートしてくださいました！

ダイニングテーブルやソファ、キャビネット等大型家具の他、お皿やカトラリー、おもちゃ類まで、総額548,540円相当のご寄付をいただきました。



家具の設置・組立日にはIKEAのスタッフさんが来てくださり、事務局スタッフもレクチャーを受けながら作業を行いました！

チャリティウォークキャンペーン「ORANGE WALK 2023」

概要

「ORANGE WALK」は、「#歩いてこども支援」のコンセプトのもと、歩くことで児童虐待防止に取り組む団体へ寄付を届ける「オンライン参加型チャリティ企画」です。期間中のエントリー人数とアプリで計測される参加者の累計歩数に応じてスポンサーからマッチング寄付が届けられます。昨年に続きバディチームが支援先団体の一つに選ばれました。支援先団体は昨年の7から13に増え、歩数アプリも「minpo」に加え、「GreenPontaAction(GPA)」からのエントリーも可能になりました。大阪でのリアルイベントも開催され、昨年より大規模に行われました。

●主催：特定非営利活動法人 日本こども支援協会 ●共催：株式会社エフエム大阪

●支援先団体：

一般社団法人たすけあい、子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー実行委員会、
一般社団法人青少年養育支援センター陽気会、認定NPO法人児童虐待防止協会、認定NPO法人3keys、
認定NPO法人CAPセンター・JAPAN、一般社団法人merry attic、認定NPO法人フローレンス、
NPO法人ホームスタート・ジャパン、認定NPO法人ブリッジフォースマイル、認定NPO法人日本こども支援協会、
認定NPO法人かものはしプロジェクト、NPO法人バディチーム



2023年のTシャツデザインは、オリジナルAI BEARアーティストの上田パロンさん。
SNSなどで、告知やエントリーのお願いを行いました。



11月26日は大阪でのリアルイベント『ORANGEWALK&TALK』に参加しました。
大阪城公園周辺をオレンジTシャツを着て歩き、その後もりのみやキューズモールBASEにて、
トークショーとつじあやのさんのライブが行われました。

★最終結果



イベント全体 エントリー： 35,423人 歩数： 7,307,761,473歩
バディチームへの支援 エントリー： 2,172人 歩数： 438,490,568歩
寄付額： 404,012円

新たに「GreenPontaAction(GPA)」アプリから参加できるようになったこともあり、開始2日目で1,300人を超えるエントリーをいただき、皆様からの関心の高さに後押しされてのスタートになりました。最終的に目標歩数にはあと少しで届きませんでしたが、支援先団体の皆さんとも協力しあい、『児童虐待を他人事にしない』という同じ思いのもと、楽しみながら参加することができました。
ご参加、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました！